

# C-1: プレアワード

開催日時・会場 9月3日(火曜日) 15:50-17:20 新C403(4階)

## 日本の国際研究者メンバーのキャリア形成と外部資金の獲得支援-メンタリングプログラム(個人指導プログラム)を通じて

日本に居る外国人研究者の問題として、科研費の若手研究や基盤研究Cなど研究助成金の獲得に一旦は成功したもののそれ以降、上位の研究種目で上手く研究費を獲得出来ない中堅キャリアの問題があります。これは外国人研究者にとっても問題ですが、科学界の日本での国際的なアクティビティーの活性化という観点に於ても国際メンバーのキャリア形成は重要な課題です。

大学の国際化を日本で進めるに当たって外国人研究者向けに「研究計画の申請書の添削や助言、また研究者へのキャリア相談の個人指導(メンタリング)プログラムを作ることが出来ないか?」というアイデアがあります。これには大学横断での取り組みが必要と考えるべきでしょう。

これに繋がる活動として、2017年度に中部東海圏を中心に7大学共同で制作した英語版「科研費の指南書」の初級編があります。現在は中級編の準備が着々進んでいるところです。

また、EURAXESSでは2006年から500件の外国人研究者の相談を行いました。2018年からはより組織的な取り組みとしてCareer Development Centresも活動し始めました。

今回のセッションでは次の様な2つの具体的な事例をレポートしてもらいます。

- ① 北米を中心に先行例として活動する国際メンタリングネットワークJoint European Mentoring Initiative (JEMI)は2018年に自立的に設立されています。その経験を。
- ② 日本に居る外国人研究者を多数支援した経験からのレポートも併せて報告。

それらの報告から、日本でメンタリングプログラム(個人指導プログラム)などの可能性についてディスカッションをしたいと思います。

## オーガナイザー

岡田 吉央: 名古屋大学  
学術研究・産学官連携推進本部 主任URA



研究支援の仕事 私のこれまでの産-学-官での経験、1)産: 沖縄のバイオベンチャー、2)学: 日本と英国とフランスでのポスドク、3)官: 中小企業の研究開発の資金補助、これらをうまく活かして名古屋大学の研究を基礎から産学連携に至るまで一貫して支援する役割を果たしたいと考えています。教育研究を通して、またグローバルに力強い地場の産業と連携して広くアジアに至るまでより大きな役割を果たして行くことに貢献できれば幸いです。

## オーガナイザー／講演者



Matthieu PY: EURAXESS Japan Coordinator

Matthieu Py 08年仏ENSPG(現PHELMA)と京大で材料工学修士。11年仏原子力庁・電子情報技術研究所で博士取得。京大でポストドク後、在日仏大使館科学技術部、14年から欧州委員会プロジェクトEURAXESSの日本室長(coordinator)、18年から日本&韓国室長。

久保陽介: 一般社団法人先端科学技術研究支援協会  
理事長

## 講演者



Photo by Nerissa Escanlar

西村 薫: 東京工業大学 地球生命研究所 URA

京都大学文学部卒業(言語学専攻)、ハイデルベルク大学短期留学コース修了(外国人のためのドイツ語学科)、パリ第7大学応用言語学部卒業(情報言語学)、フランス国立科学研究センター(CNRS)東京事務所アシスタント、東京大学生産技術研究所および医科学研究所URAを経て現職。省庁レベルから研究者レベルまで様々な国際共同研究の支援に従事。放送大学修士(学術)および東京農工大学技術経営修士。

安田 真浪: 株式会社トライアングル・トラスト  
代表取締役